

平成29年度第3回桑名市入札監視委員会議事録

日 時 平成30年2月8日（木） 10:00～12:00

場 所 市役所3階第2会議室

出席者 桑名市入札監視委員会委員（5名）

東川 薫（委員長）

伊藤由美子（副委員長）

赤木 邦男

佐藤 久善

藤田 素弘

事務局（7名）

平野 勝弘（総務部 部長）

和田 克正（契約監理課 課長）

種村 悟（〃 課長補佐兼検査指導係長）

蒔田 宏之（〃 課長補佐兼契約調達係長）

石川 友紀（〃 契約調達係）

稲垣 吉文（上下水道部 企画総務課 課長）

安達 貴雅（〃 総務係主査）

工事担当課（6名）

高柳貴久蔵（財政課 主幹）

眞柄 光作（財政課 公共施設マネジメント係長）

小林 代二（都市整備課 課長）

中村 誓章（都市整備課 公園・スポーツ施設整備係長）

加藤 文人（上下水道部 施設課 課長）

蛭川 裕司（上下水道部 施設課 主幹）

事 項

1 開 会

【事務局】

皆さん、おはようございます。

本日は、大変寒い中、大変お忙しい中、ご出席賜りましてまことにありがとうございます。

定刻、少し早いですが、平成29年度第3回入札監視委員会を開催させていただきます。

最初に、私どもの総務部長から挨拶申し上げます。

【事務局】

おはようございます。総務部長の平野です。早朝よりお集まりいただきまして、ありがとうございます。

この桑名も例年になく氷点下の日が多いということで、市役所内もインフルエンザが今ちよっとはやっております。職員のほうも仕事に影響がないようにということでかなり気をつけて対応しておるような状況です。予算面でも、この前、雪がありまして、一晩で融雪剤を配布するだけでも800万ほど予算がかかるということで、この前、雪が降りましたときには2晩、夜中の3時ぐらいに警報が出たということもありまして、予算面でもちよっと厳しい対応をしているというような状況であります。この

あたりでこんなことを言っていると東北とかというところには大変失礼な話になるのですけれども、そういったような今年は厳しい状況である中で業務のほうに努めているというような状況であります。

今日は、皆さんのほうにまたご審議ということでお願いしたいと思っておりますが、指名停止の状況、また、入札の状況について、抽出案件5件についてご審議のほうをお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

本日の議事につきましては、お手元の事項書に基づき進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、本委員会は、入札監視委員会条例第5条第2項の規定を満たしておりますので、会議は成立していますことをご報告申し上げます。

それでは、開会に先立ちまして、東川委員長からご挨拶を頂戴したいと存じます。よろしくお願いいたします。

【委員長】

非常に寒い中、お忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。

既に部長さんのほうからご挨拶がありましたけれども、非常に天候も厳しい天候が続いていて、私はよくわかりませんが、それが原因で緊急の工事なんかが発生するようなこともあるのかもしれないと思います。

この委員会は公開としてやっていきたいと思っております。ご協力をよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

ここからは桑名市入札監視委員会条例第5条第1項の規定に基づきまして、東川委員長に議事の進行をいただきたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【委員長】

それでは、事項書に従って議事を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

今日は傍聴の方はいらっしゃいませんか。みえない様ですので、次に進めたいと思います。

2 議 事

(1) 入札及び契約手続きの運用状況について

【委員長】

それでは、早速、審議に入りたいと思います。

議事の1です。入札及び契約手続の運用状況につきまして、事務局のほうから説明をお願いいたします。

【事務局】

事務局の蒔田でございます。着座にて説明させていただきます。

それでは、(1)入札及び契約手続の運用状況について説明させていただきます。

資料の1ページをごらんください。

①指名停止の状況でございますが、今回の審議対象期間であります平成29年9月から12月の4カ月間に指名停止を講じた件数は6件となっております。このうち、本市が独自に指名停止を講じた左側の3件について説明させていただきます。左側から順番に説明させていただきます。

北村化学産業株式会社は、契約締結した桑名市指定ごみ袋（可燃物用小）において、高温による船舶

遅延により袋の製造先である中国からの輸送がおくれたため、納期までに納品を完了することができませんでした。これは桑名市の指名停止基準別表第2第7号の不正、または不誠実な行為に該当しますので、1カ月の指名停止を講じました。

次に、2件目ですが、株式会社日比研究所は、契約締結した桑名市指定ごみ袋（可燃物用大）において、人員確保ができなかったこと及び悪天候による船舶遅延により袋の製造先である中国からの輸送がおくれたため、納期までに納品を完了することができませんでした。また、対象業者は同様な案件で平成28年11月18日に1カ月、平成28年12月28日に2カ月の指名停止を講じており、指名停止期間満了後1年を経過していないことから、桑名市の指名停止基準別表第2第7号の不正、または不誠実な行為及び同基準第6条第2項第1号の加重に該当し、2カ月の指名停止を講じました。

次に、3件目ですが、第一環境株式会社は、契約締結した桑名市上下水道部営業関連業務委託において、確認不足により使用中の60個の水道メーターでございます量水器について計量法に基づく有効期限8年を超過させるという事象を起こしました。これは桑名市指名停止基準別表第2第7号の不正、または不誠実な行為に該当しますので、1カ月の指名停止を講じました。

残りの3件につきましては、三重県が実施した指名停止に合わせまして桑名市でも同様の措置を講じたものでございます。

次に、②の談合情報でございますが、対象期間において寄せられた情報はございませんでした。

説明は以上でございます。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等はございますでしょうか。ありましたらお願いします。

それでは、ただいまの説明につきましては以上とさせていただきますと思います。

（2）抽出事案の審議について

【委員長】

それでは、続きまして、議事の（2）です。抽出事案の審議についての項目に移ります。

審議に先立ちまして、抽出案件5件について説明を得るため、入札監視委員会条例第6条の規定に基づき関係者の出席を求めたいと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

異議なし。

【委員長】

それでは、関係者の出席を求めます。

（工事担当課 入室）

【委員長】

それでは、審議に当たりまして、今回の5件の抽出理由について私のほうから説明をいたします。

1件目です。適応指導教室建設工事です。入札方法は事後審査型条件付き一般競争入札ということで、抽出理由なのですが、落札率が高いということと発注金額が高額であるため、あと、応札業者の数が少ないという理由から抽出いたしました。

2件目です。適応指導教室建設工事監理業務委託です。これは随意契約ということで、随意契約なのですが、落札率が低いということでちょっと目を引いたので抽出いたしました。

3件目です。桑名市総合運動公園（第2工区）整備工事です。これは事後審査型条件付き一般競争入札ということで、落札率が高い、また、発注金額が高額であるため、抽出いたしました。

4件目です。桑名施設遠方監視制御装置更新工事、これは事後審査型条件付き一般競争入札で、落札率が低い、発注金額が高額である。応札業者の数が少ないという理由です。

最後、5件目です。桑名施設計装盤用制御回路装置更新工事、これは随意契約で発注金額が高額であるため抽出いたしました。

以上でございます。

抽出事案 1 (仮称)適応指導教室建設工事

【委員長】

それでは、第1案件です。適応指導教室建設工事につきまして、発注担当課のほうから工事概要の説明をしていただき、その後、事務局から発注公告の内容と入札結果についての説明をお願いいたします。それでは、お願いします。

【担当課】

総務部財政課です。よろしくお願いします。工事概要のご説明をさせていただきます。

3ページのほうをごらんください。

工事名、(仮称)適応指導教室建設工事、予算額9,822万6,000円、設計額9,802万5,120円、工期につきましては平成29年12月5日から平成30年6月29日まででございます。

工事場所についてでございますが、次ページ、4ページのほうをごらんください。

4ページのほうが付近見取り図になります。こちらのハッチングのしてあるところ、桑名市鍛冶町14番地が工事場所となります。

工事概要につきましてご説明させていただきます。再度3ページのほうをごらんください。

工事概要としまして(仮称)適応指導教室の新築工事になります。そのうち、建築工事、電気設備工事、機械設備工事の一式が工事内容となっております。建物の構造といたしましては鉄骨造、くい基礎、長さ8メートル、規模は平屋建て、延べ面積281.81平方メートルでございます。

こちらからは以上でございます。

【事務局】

事務局、蒔田です。座って失礼いたします。

続きまして、発注公告及び入札経過について説明をさせていただきます。

資料の5ページをごらんください。

入札方法は事後審査型条件付き一般競争入札です。資料の中段をごらんください。入札参加資格につきましては、建築工事の許可業者であること、所在地条件は市内までとし、経審点数は630点以上、発注業者の完成工事高は予定価格の2分の1以上であること、同種工事施工実績は平成19年度以降、官公庁が発注した案件で建築一式工事の施工実績を有すること、技術者要件として現場代理人及び専任配置の監理技術者の配置を求め、以上の要件により公告いたしました。

次に、入札経過及び結果でございますが、6ページをごらんください。

平成29年11月22日に入札を行いましたところ、1者から応札があり、開札の結果、株式会社薫田工務店を落札候補者といたしました。その後、事後審査を行った結果、適格であったため、当該事業者を落札者に決定し、税抜き8,600万円で契約を締結いたしました。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

【委員長】

それでは、ただいまのご説明につきまして、ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

【委員】

1者だけだったということですが、契約金額がわりと大きいので、落札率も高いのですが、これは市

内業者なのですが、大体どのぐらいの業者がいることを想定して入札されたのでしょうか。

【事務局】

事務局、蒔田です。

市内業者、6業者でございます。

【委員】

1者だけであったというのは何かほかの業者も結構忙しい状況だったと、何か予想されますか。

【事務局】

事務局でございます。

今、蒔田のほうから、一応6者ほど想定はしていたのでございますけど、実際、結果的に1者だったのですが、理由といたしましては、ちょうど同時期にいなべ市も入札をされておまして、この場合も金額的に折り合わなくて不調になっております。そこも2者ほどしかなかったということで、この時期、オリンピック関係の工事とか、リニアの工事も始まっておりますので、費用的にも非常に高く、資材も高騰しているでしょうし、人の手配も大変厳しい時期だったのかなということで、結果的に1者しか応札がなかったのではなかろうかと、これはあくまでも想定でございますけど、事務局ではそういうふうに思っております。

以上でございます。

【委員長】

そのいなべ市の同時期の入札というのは、基本的に求められる技術とか要件は同じような構図ということですか。

【事務局】

一応、幼稚園というふうに聞いています。そっちのほうもちょっと費用的に合わなかったということで伺っております。

【委員長】

ほかはいかがでしょうか。

1者しかないときの話というのは時々出るのですよね。ほかの自治体でも1者だけでも何も問題がなければそのままやっているのですよね。そこを何か工夫するというのは今のところあまりないでしょうか。

【事務局】

事務局です。

一応数者あったほうがもちろんいいのでございますけど、1者でも一応予定価格の範囲内でございますし、金額的にはちょっと落札率は高かったのですけれども、事後審査でも特に問題なければ私どもとしては契約をさせていただくということでございます。

以上でございます。

【委員長】

ほかは何かございますか。

【委員】

この入札の応募業者が少ないという事情の中に価格がというお話がありましたが、基本的に積算で不当に安い値段を市が提示しているわけでもないと思いますし、実際、応札してきたところも予定価格よりは低いところで出しているのですが、価格以外の要素というのは今回あまり考えられないことなのですか。いなべ市の例も値段が合わなくて少なかったという話でございますが。

【事務局】

私どもとして今のご質問に対して、一応、あくまでも予定価格を公表しているということもありまして、業者さんも事業を受注したい場合は当然予定価格の範囲内で応札していただけたとは思いますが。ただ、いなべ市さんの場合は予定価格を事前公表していませんので、いなべ市さんが思っていた価格よりは高かったということで、不落となっております。私どもは先回言ったように予定価格を事前公表して

おりますし、資材の高騰とかも考えたうえで受注者も予定価格の範囲内の金額で応札をされたのじゃないかなというふうには思っています。

それと、また、場所的にも住宅街の中ですので、周りの工事をするに当たってもいろんな苦情もあるかなと思いますし、ここは遺跡もある可能性の地域ですので、そういうことでいろんな諸条件も重なったのかなというふうに思っています。

以上でございます。

【委 員】

ありがとうございました。

すみません、非常に素人の質問なのですが、入札参加資格要件のところの建設業の許可で建築工事業の特定であることというふうになっているのですが、一般と特定って何が違うのでしょうか。それによって応札できる業者の数というのはどの程度変わのでしょうか、教えていただけますか。

【担当課】

財政課です。よろしくお願いいたします。

先ほどご質問がありましたように、建設業の許可の特定と一般の違いということですが、建設工事で下請業者に下請工事を発注する場合、下請金額が建築一式工事に限っていえば6,000万以上を下請に出す場合は特定の許可を持っていないとできないとなっております。6,000万以下であれば一般の許可でもできることになっておりまして、その部分が特定と一般との違いです。

先ほどもありましたように、特定許可の市内業者ということであれば6者、資格のある業者があるということになります。

以上でございます。

【委 員】

その特定の許可というのは何が要件なのですか。

【担当課】

国や県で審査をしていただいて、会社の規模などで許可の区分が決まってきます。

【委 員】

ありがとうございました。

【委員長】

ほかはいかがですか。

【委 員】

資料を見ていて、本公告の日からというのが結構出ているのですが、本公告の日というのがどこに書いてあるかわからなかったので教えてください。

【事務局】

事務局でございます。

5ページにあります発注公告の左上の日付が本公告の日です。平成29年11月2日でございます。

【委 員】

次のとおり公告するとありますね。これがこの資料がそのまま本公告の内容になるのですか。

【事務局】

はい。

【委 員】

そうすると、11月2日に出されて開札が22日ですから、通常、業者としてはそのぐらいあれば全ての業者に情報が行き渡るというのでしょうか。

【事務局】

事務局です。

この工事は大きい工事ですので、ほかよりも長目に見ております。

【委 員】

ちょっと細かい話かもしれませんが、質疑、回答というのがあって、これは何か質疑、回答とかはありましたでしょうか。

【事務局】

特にございませんでした。

【委員長】

参考までに、遺跡のことが全然知らないのですが、もし何か発見されてしまうと一般的にはどういうことになるのですか。段取りとしてはどのようにするのでしょうか。

【担当課】

財政課でございます。

私どもも実際に遺跡の範囲になっていまして遺跡が出たということがないものですから、具体的などころまではちょっとわかりかねますが、基本的には、今回遺跡があるだろうという範囲のところは工事着手前に掘削をしまして、出るかどうかという確認をさせていただきます。遺跡がでない場合であればそのまま工事は進めるのですけれども、実際に出たということになれば一旦そこで工事をとめて、三重県や、桑名市の文化関係の所管を通して県のほうと協議しながら進めていくというような形になるのかとは考えております。

【委員長】

そうなると、普通に考えると費用のこととか、日程も変わってくるので、そういうときは契約の内容などはどうなるのですか。

【事務局】

事務局です。

基本的には協議をさせていただきまして、変更契約をする形になります。

以上でございます。

【委員長】

ほかの方はいかがでしょうか。

では、本件につきましては特に問題なしということで、以上にしたいと思います。

抽出事案 2 (仮称)適応指導教室建設工事監理業務委託

【委員長】

次に、第2案件です。これは1件目と関係があるものだと思いますけれども、適応指導教室建設工事のこちらは監理業務委託です。それにつきまして発注担当課から概要の説明をしていただき、その後、事務局から入札経過についての説明をお願いいたします。

【担当課】

総務部財政課でございます。

委託業務の概要のほうをご説明させていただきます。

7ページのほうをごらんください。

委託業務名、(仮称)適応指導教室建設工事監理業務委託、予算額339万8,760円、設計額304万3,440円、履行期間、平成29年12月7日から平成30年7月12日まででございます。

工事場所につきましてですけれども、8ページのほうをごらんください。

先ほどの工事と同じ場所になりますけれども、桑名市鍛冶町14番地になります。

業務概要につきましては、1ページ戻っていただきまして7ページのほうをごらんください。

(仮称)適応指導教室建設工事の新築工事、建築工事、電気設備工事、機械設備工事一式の工事内容に対しまして工事の監理業務委託を実施するものでございます。構造規模につきましては、先ほどの工事でご説明させていただいたとおりになります。

こちらからは以上になります。

【事務局】

事務局の蒔田です。

続きまして、見積もり経過及び結果でございますが、10ページをごらんください。

平成29年12月1日に見積もり合わせを行い、指名業者の玉小建築設計室から見積もりをしましたところ、予定価格の範囲内でしたので税抜き210万円で契約を締結いたしました。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明につきましてご質問がございましたらお願いいたします。

【委員】

先ほどの第1件目の建設工事の監理をする業務だと思うのですが、ここに1件目のほうで技術者要件としまして監理技術者を専任配置するように定めて業者を選定していて、その上にまた設計業者に対して監理技術を委託するということですよ。二重にそういう監理をする必要があるのかということをお聞きしたかったのと、随意契約でございまして、これは前回のときに説明がありましたね。くいを一部抜いたり、抜かなかったり、残したりして、跡を利用してそのまま使うというふうな設計だったと思うのですが、そういう特殊な設計をしているから、設計したところにそういう監理技術をまた随契で結ぶというなら、最初からそういう特殊な設計をするところに後々の設計書どおりやるのかどうかという監理のものを含めて最初に一般競争入札でしていたら、もっと監理技術の部分だけ随意契約するという、何や1者と随意契約か、設計したところがすぐ持っていくのかという話になるよりは、設計の段階で競争させたほうがもっと見た目がクリーンなのかなという気がしますが、その2点について伺いしたいと思います。

【担当課】

財政課でございます。

2点ご質問をいただいております、まず1点目、工事の施工業者のほうで専任の配置を求めているという形と監理業務という形で二重の監理をしているということだと思います。基本的には施工業者、今回でいうと、薫田工務店さんのほうの監理技術者というのはあくまでも工事の監理という形の部分の専任をしておいただいているというところでございます。今回、こちらの2件目のほうの監理業務委託というのは、あくまでこちらのほうは工事、現場の工事と設計業務のほうが合致した、しっかりこちらのほうの求めている設計水準のものに達しているかというところを監理していくという部分と、あと、こちらの市の立場として工事を監理していただくという形ですので、同じところを監理しているということではございません。

2点目の言われる、設計をしたところに随意契約ということでございますけれども、前回のことも説明していただきまして、今回、設計の中で全部くいを抜くと、先ほど事務局のほうからも説明がありましたように、市街地ですので近隣への影響もあるということで、くいを抜かずに残すというような設計をさせていただきました。こちらのほうはくいを全て抜くか抜かないかというのは設計の中で検討しておることとございまして、その中で条件を決めて変わってきたという部分でございますので、今回、最初、設計委託を出す前から特殊な工事になるかどうかというのはちょっと想定ができていないものですから、まず設計を委託で出させていただいて、結果としてそういった特殊なくいを残していくというような事情が出てきましたので、随意契約という形をとらせていただいております。

ただ、言われるように、設計と監理は一体的なものです。やっぱり設計の意図を酌んで工事をやっていただきたいという部分がありますので、監理委託を随意契約というのはほかの工事でも多々ある部分ではございますので、設計と監理を一括で出せるかというのは一度こちらのほうでも検討はしてまいりたいと思います。

以上でございます。

【委員長】

ほかの方はいかがですか。

【委員】

玉小建築設計室が現地の状況や設計内容に精通しているということを判断する理由はどういう理由ですか。

【担当課】

財政課です。

精通している件につきましてですが、先ほどお話がありましたように、今回の建物は隣地の建物と近接しているということ、あと、この建設工事の前に解体工事をさせていただいたのですが、そのときに近隣への影響を最小限に控えるために既存のくいを残しております。その辺を今回の建設工事もうい工事があるのですが、それに影響のないように配置をしなければなりません。その辺を解体工事、あと、設計時、それから工事とかがかりますので、一連の流れで状況を把握している玉小建築設計、設計者である玉小建築設計室でないと状況がわかりづらいということで随意契約とさせていただいております。

以上です。

【委員長】

ほかの方はいかがですか。

それでは、この案件については特に問題なしということで、ただ、さっきの設計と監理業務の内容によりまして、一体として扱ったほうがいいのかもありませんので、その点につきましてはまた検討のほうをしていただきたいと思います。

抽出事案 3 桑名市総合運動公園（第2工区）整備工事

【委員長】

それでは、次に、第3案件です。桑名市総合運動公園（第2工区）整備工事について発注担当課から工事概要の説明をしていただき、その後、事務局から発注公告の内容と入札結果についての説明をお願いいたします。

【担当課】

都市整備課長の小林でございます。隣は公園・スポーツ施設整備係長の中村でございます。よろしくお願いいたします。失礼いたしまして、着座にてご説明をさせていただきます。

それでは、審議資料の11ページをお開きください。

工事概要書でございます。工事名は桑名市総合運動公園（第2工区）整備工事です。予算額、設計額、工期につきましては記載のとおりでございます。

12ページには総合運動公園の平面図を添付しております。現在、ネーミングライツによりNTN総合運動公園と呼ばれておりますこの運動公園は、陽だまりの丘の住宅地の西側に隣接しており、全体面積が約28ヘクタールございます。全体を4つの工区に分けて整備を行っており、図の左下、第1工区、テニスコートにつきまして平成7年度まで、図の右下、第3工区でございます陸上トラックのある多目的運動場、グラウンドゴルフ場、デーキャンプ場につきましては平成17年度までに整備を完了して使っていただいております。現在は、図の上の面積約12ヘクタールございますが、第2工区のサッカー場の整備を平成19年度から進めており、メイングラウンド、サブグラウンドともに完成し、ご利用いただいております。ちなみに、第4工区につきましては、現計画は屋内運動場、プールの整備予定でございます。

めくっていただきまして、13ページ、14ページには工事の計画平面図を参考でつけさせていただきます。計画台数58台の駐車場、扇形の駐車場でございます。

11ページにお戻りいただきまして、工事概要でございますが、この審議案件の工事は第2工区、サッカー場のエントランス付近での中央駐車場の整備でございます。工事の内容といたしましては、土工

事一式、給水管路工175メートル、側溝工203メートル、排水管工73メートル、電気設備工一式、路盤工3,374平方メートル、水飲みとトイレが各1基、サッカーグラウンド脇の沿路舗装が225平方メートルでございます。今年度工事におきましては駐車場の路盤までの施工でございますので、平成30年度に舗装工事を予定いたしております。

工事の概要は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

【事務局】

事務局の蒔田です。

続きまして、発注公告及び入札経過について説明させていただきます。

資料の15ページをごらんください。

入札方法は事後審査型条件付き一般競争入札です。資料の中段をごらんください。入札参加資格要件につきましては土木工事業の許可業者であること、所在地条件は市内までとし、経審点数は730点以上、発注業者の完成工事高は予定価格の2分の1以上であること、同種工事施工実績は平成19年度以降、官公庁が発注した案件で土木一式工事の施工実績を有すること、技術者要件として現場代理人及び専任配置の監理技術者の配置を求め、以上の要件により公告いたしました。

次に、入札の結果及び経過でございますが、16ページをごらんください。

平成29年11月22日に入札を行いましたところ、2者から応札があり、開札の結果、2者とも最低制限価格を下回ったため不落となりました。

続きまして、17ページをごらんください。

不落となりましたので、設計書の変更及び入札参加資格要件の所在地の緩和を行い、再度入札を実施いたしました。発注公告及び入札経過について説明させていただきます。

発注公告につきましては、先ほど説明させていただきました前回からの変更点のみ説明させていただきます。2点ございます。まず、1点目ですが、設計書の変更に伴いまして予定価格は増額となっております。次に、2点目ですが、所在地要件に準市内業者を追加し、準市内業者の経審点数は1,200点以上としています。その2点を変更し、公告いたしました。

次に、入札の経過及び結果でございますが、18ページをごらんください。

平成29年12月20日に入札を行いましたところ、3者から応札があり、開札の結果、最低制限価格を下回った1者が失格となり、残りの2者が最低制限価格以上予定価格以内で応札し、2者が同額のため、くじにより日本興業株式会社を落札候補者といたしました。その後、事後審査を行った結果、適格であったため、当該事業者を落札者に決定し、税抜き6,545万5,000円で契約を締結いたしました。

説明は以上でございます。審議のほどよろしくお願いいたします。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見をお願いします。

【委員】

1回目が不調に終わったということで、もう一度仕切り直したという案件だというふうに見ておりますけれども、不思議な気がするのですが、1回目は最低制限価格を下回るようなことでもって2者とも失格になって、工事内容が若干変わったかどうかわかりませんが、今度はいわゆる予定価格100%を2者とも出してきているというのはどうしたらこういうことになるのでしょうか。何かよくわからないなと思ってしまいますが、その辺の何か疑問に対してどういうふうに市としてお考えになるか、教えていただけますか。

【事務局】

事務局でございます。

この案件、1回目は11月にやって不落になりまして、2回目の再入札で一部内容を見直して再入札をしたところ、今ご指摘のとおり、3者からいただきまして1者が少し安くて失格、2者が予定価格の

金額で応札をされて、結果的に1者がくじ引きでということなのですが、正直、私どももこういう結果というのはわからなかったのですけれども、考えられることとしましては、再入札をしたということでまず工期が非常に厳しくなったということです。約1カ月遅くなりましたので、年度内で工事を完成してほしいという市の要望はあるのですが、それが1カ月遅れたということで非常に厳しいので、従業員への人件費等で結構高くなったのかなと思います。実際当たっているかはわかりませんが、それで予定価格で入札してきたというのも1つ考えられます。

それと、予定価格を1回目で公表していますし、開札後に最低制限価格も公表しましたので、ある程度この初めの2者は予定価格も最低制限価格もわかっているということで、さっき申しました予定価格いっぱいに入れてきたということかなと思います。とにかく工期が厳しいということが一番大きな原因かなと思います。以上でございます。

【委員】

わかりました。

【委員長】

ほかはいかがですか。

【委員】

第1回目の入札の業者、2者とも5,880万円で同額ですし、第2回目の入札も6,545万5,000円というのも同額ですが、ここは審査の結果で何らかの話が聞かれたのかどうかということと、もう一つは、結果として第2回目に参加しましたところ、1者が最低制限価格を4万円下回ったことです。そのことによって失格になって、予定価格と同額で入札した2者が抽せんで、結局、市としては650万、660万ぐらい余分に工事費を支払う形になっているわけですので、この辺の最低制限価格制度は決まりですから結果としてそれは仕方がないのかもわかりませんが、4万円のことで600万を余分に払わなければならないのかというようなことになってしまいますよね。前も同じような案件があったかと思いますが、最低制限価格制度に基づいて90%ぐらいで価格を算出してみえるのかもわかりませんが、端数のはみ出た部分を切るか、切らないか、切り上げるか、切り下げるかというところでそれだけの差が出ておるのかなという気がします。この辺は何かかならないのかなと単純に思っています。その辺は2者が2者とも同額だったという点と、5,000万を超える6,000万近い中で4万円の差で600万、700万近い余分なお金を払わなければならないというのはどうかなという気がしますので、ご確認をお願いします。

【事務局】

事務局でございます。

おっしゃるご指摘はごもっともだと思っております。ただ、私どもとして今最低制限価格の算出方法はずっと4月から終始一貫やっておりますので、ここで4万のことで云々というのはほんとうによく心情はわかりますけど、決まりがあるということでこういう形での4万円で失格とさせていただいたということで、何とかご理解をいただきたいなと思います。

それと、同額で応札をされたということで、正直、先ほどもちょっと言いましたけど、詳しい理由はちょっとわからないのですが、受注の意欲はありますが、工期的に厳しいということで、予定価格は公表していますので、予定価格で応札をされてきたのかなということでございます。それ以上のことはなかなかわかりませんが、今後、最低制限価格に関しましてはこれからもまたこちらの事務局としても変更できるところは考えていきたいなと思いますので、ご指摘のことは十分理解して考えていきたいと思いますので、よろしくお願いしたいなと思います。

以上でございます。

【委員長】

ほかはいかがでしょうか。

【委員】

1回目の応札後に最低制限価格と予定価格を公表してということですよ。2回目の応札では2者は

知っていたのだけど、1者は知らなかったということになるのですか。1回目が終わった時点で最低制限価格と予定価格を公表されているのですよね。

にもかかわらず、伊藤工務店は最低制限価格を下回って出してくるというのはどういうことなのでしょう。

【事務局】

事務局でございます。

1回目の開札の後、予定価格は事前公表、最低制限価格は応札されたときにホームページで公表していますので確認されていれば知っていると思います。ただ、2回目の伊藤工務店が応札されたときは、予定価格は事前公表ですが、最低制限価格は事後公表でございますので、すべての業者が最低制限価格をご存じないと思います。

【委員】

それでは伊藤工務店はチェックしなかったということですか。

【事務局】

確認されていなかったかどうかはちょっとわかりませんが、私どもは開札後に結果を全部公表しています。

【委員】

今のですけど、第1回目の最低制限価格5,885万円というのは、第1回目の入札が終わった段階で公表されましたので、2回目のときに伊藤工務店さんはその1万円高い5,886万円で応札されたということなのですが、このときには設計価格が7,069万の予定価格ですから、それが少し上がっているんで、最低制限価格が5,890万円ということになって5万円ぐらい上がっていたので、それで落とせなかったということになったわけですね。ですから、伊藤工務店さんとしては何とか落としたいなというすごく意欲はあったのだと思いますが、たまたまちょっと見込みが悪かったなということですかね。

以上です。

【委員長】

金額を見て、私もそう思いました。

【委員】

それはやっぱり変えないといけないものなのですか。

【事務局】

事務局でございます。

1回目の改札の結果、予定価格、最低制限価格、公表していますので、再入札のときは一部設計書を今回も変更しました。してもらって新たに予定価格も当然変わっていますし、それによって最低制限価格も変わってきておりますので、一旦開札してしまったら変えなくてはなりませんので、そこら辺はちょっとご理解いただきたいということで、今回は一部、2回目の入札のときには設計額を見直させていただきまして再公告という形をとらせてもらいました。

以上でございます。

【委員】

最低制限価格はいいいのですけど、予定価格で2者が出してきたというのは、もうこれはほかには応札してくる業者がないと、2者ともそう考えて出してきたということ、どういう理由なのか私もちょっとわかりませんが、2者が応札したというのは公表されるのですか。これ、不調に終わったのは1者しか出していなくて不調に終わったから、これはもうどこもとるところはないから、予定で出しておけばいいやと2者とも思っただけということはないでしょうか。2者が応札して両方だめだったという情報も公表されるのですか。

【事務局】

1回目の結果は全て公表しています。それに基づいて先ほど言いました再入札という形をとらせてい

ただいたら、今度は伊藤工務店さんも入ってきて3者になったのですが、結果的に伊藤工務店さんはちょっと最低制限価格を下回ったということで失格ということです。偶然2者が一緒の予定価格で入れてきたというのはちょっと理由はわかりかねます。

済みません、以上でございます。

【委員長】

ほかには。

とりたい意欲の話になってしまいますが、むしろ伊藤工務店さんのほうがとりたい意欲があるような、最初の2者のほうは予定価格で応札して来るなら来るけどみたいな感じも受けますけどね。個人的な感想ですけどね。確かに4万円下回っただけで、4万円下回ってもやってくれるわけだから、この5,690万でお願いしてもやってくれると思うのだけど、どうなのでしょう。ここら辺の工夫を、別に今すぐどうこうという話じゃないですけど、考えていただくとよろしいかと思います。

これにつきましては以上といたしたいと思います。

抽出事案 4 桑名施設遠方監視制御装置更新工事

【委員長】

次に、第4案件です。桑名施設遠方監視制御装置更新工事につきまして、発注担当課から工事概要の説明をしていただき、その後、事務局から発注公告の内容と入札経過についての説明をお願いいたします。

【担当課】

施設課長の加藤でございます。隣は施設課主幹の蛭川でございます。概要については蛭川のほうから説明させていただきます。

それでは、水道施設設備工事につきましてご説明させていただきます。

資料19ページの工事名、桑名施設遠方監視制御装置更新工事につきましての工事概要書をごらんいただきたいと思います。

設計額につきましては7,283万7,360円、工期につきましては平成29年10月2日から平成30年3月15日までとしております。工事概要につきましては、工事位置図に示します3カ所の水道施設の遠方監視制御のためのテレメーター装置の更新工事でございます。水道施設管の自動連動運転制御、また、各施設の運転状況を有人管理の上野浄水場監視室にて監視制御するもので、経年劣化に伴います機能不良を未然に防止するために行うものでございます。更新に伴いますテレメーター装置の構成といたしましては、20ページの位置図に示します位置の上野浄水場と位置図に示します2の西部水源地のテレメーター装置親局、子局の取りかえ一式、それと、位置図に示します2の西部水源地と位置図に示します3の西部7号、8号井を結ぶ対向のテレメーター装置親局、子局の取りかえ一式となります。

以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

【事務局】

それでは、事務局から発注公告と入札経過につきましてご説明を申し上げます。

資料につきましては21ページの発注公告をごらんいただきたいと思います。

入札方法につきましては、事後審査型条件付き一般競争入札でございます。入札参加資格要件といたしましては、特定、または一般の電気工事業の建設業許可を受けたものとし、所在地要件は県内の業者としております。経審点数は市内業者450点以上、準市内業者500点以上、県内業者550点以上とし、同種工事施工実績として平成19年度以降、官公庁が発注した案件で遠方監視制御設備の製作、または据えつけ工事の実績を有することとし、配置技術者要件といたしましては現場代理人と主任技術者の専任配置を求める。主任技術者には2級電気工事施工管理技師、または第1種電気工事士以上の資格を有する者を配置することとして公告をいたしました。

続きまして、入札経過及び結果でございます。

資料につきましては22ページをごらんください。

平成29年9月19日に開札を行いましたところ、1者から応札があり、最低制限価格以上かつ予定価格の範囲内でありましたので、株式会社三重日立を落札候補者とし、事後審査を行った結果、適格でありましたので、当該事業者を落札者と決定し、税抜き価格5,896万円で契約を締結いたしました。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしく願いいたします。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等をお願いいたします。

【委員】

こちらですけど、更新工事ということだと、以前設置したもの、新設したもの、もしくは以前も更新したものを再びしたということと理解しますが、その以前というのも三重日立さんだったのでしょうか。

【担当課】

施設課でございます。

既設設備につきましては、日立製作所製の設備が入っております。施工業者さんは三重日立となっております。

【委員】

そうすると、昨年とか、過去においても何回も出た議論だと思いますけど、三重日立さんしか責任を持ってできないような業務、要は全く他者が手をつけられない技術的な面というのはやむを得ない部分というか、そういうものなのでしょうか。例えば私の素人的な話ですと、例えばバスがあつて、バスが三菱にしろ何にしろ、その整備を多少腕の違いはあるのかもしれませんが、別にトヨタであれ、日産であれ、多分バスごときというとな変ですけど、誰でも整備の技術さえあればできる話だと思いますけど、こういう部分についてはそうはいかないのか、いくのか、そのあたりを教えていただきたいです。

【担当課】

施設課でございます。

今回の工事につきましては、対向の親局、子局、両局ともに更新工事を行っております。親子で対になった設備でございますので、片側だけ、例えば傷んだ都合で取りかえる必要が出てきたということなことで、対向上どうしても設備が同一、通信可能な設備に限られるということなのですが、今回の工事につきましては、親子ともに対向局、両方更新するということで問題ないです。そういったものがそろった状態で更新ということで、一般競争入札で問題ないと判断をして入札を行っております。

【委員】

一般競争入札で問題ないということですけど、実際手を挙げるのは三重日立さん以外ないだろうと予想がつくという市の認識としてあったのかどうか、教えていただきたいです。

【担当課】

施設課でございます。

発注側としましては、他業者さんも参加可能という想定で一般競争入札を行っております。先ほど言いましたように、対向ともに、親子ともに更新ということで、可能か不可能かといいますと、可能というふうに判断しております。

【委員】

そうすると、やっぱり三重日立さんだと自社ということですので安くこういう形で、ノウハウも自分の製品なのでできるところを他の業者はやっぱりその辺、この金額で対抗できないので結局こういう結果になったという私の考えというのはあながち誤っていないのかということをお教えいただきたいです。

【担当課】

施設課でございます。

そのあたり、なかなか業者さんの中のことまではわかりづらいところもあるのですが、確かに既設に入られているということで情報は多々お持ちかと思います。ということで、優位にはなるのかなというのはあるかもしれませんが、今回の落札率からいいますと、ひょっとしたらそういった他者を意識されているところもあり、頑張られた金額が上がっているのかなというふうには感じております。

【委員長】

ほかはいかがでしょうか。

【委員】

一応、これ、もともと日立製が入っていて、今回、日立になったわけなのですが、ほかにメーカーというのはどこがあるんですか。

【担当課】

施設課でございます。

いろんなメーカーはありますが、大型のものから小型のものまでいろいろあります。例えば例として、三菱電機さんであったりとか、横河電機さんであったりとか、こういった水処理関係の強いメタウォーターさんという会社であったりとか、そのほかにも小さい会社もたくさんございます。

【委員】

今回は県内業者まで入れているわけなのですが、想定される業者数というのは全部でどれくらいあったんですか。

【担当課】

施設課でございます。

一応、今回の該当するような条件で県内まで含めまして10者程度は想定しております。

【委員】

あと一つ、たまたまだったのかどうなのかわからないのですが、日立さんが出されてきたものがちょうど最低制限価格に張りついているというのは、こういう見積もりを出すことができるものなんですか。

【担当課】

施設課でございます。

予定価格のほう公表されていることから、ある程度計算でぴたり当てられたのかなというふうに推定します。

【委員】

きちっとした業者さんがいわゆる頑張っていただいた値段でいい施設をちゃんと入れてもらえるなら、市としてはそれにこしたことはないと思います。ただ、やっぱりいわゆる入札という形を考えると、そこに競争原理が働いていないのがちょっと気になるなというところでございます。ありがとうございます。

【委員長】

ほかはいかがですか。

【委員】

私、よくわかっていないので、遠方監視システムというのですか、これは昔から桑名に関してはずっと日立さんが手がけてきているのですか、さかのぼっていくと。そこら辺はどうなのですか。

【担当課】

施設課でございます。

今回の更新箇所の機場につきましては日立製のものが入っておりますが、市内その他の施設の、先ほども登場しましたメタウォーター製のものであったりとか、横河系のものであったりとかというのも入っておりますので、全域日立というわけでもございません。

【委員長】

ほかはいかがですか。

それでは、この件に関しては特に問題はないといたしたいと思います。

抽出事案 5 桑名施設計装盤用制御回路装置更新工事

【委員長】

では、最後の案件です。桑名施設計装盤用制御回路装置更新工事、これは第4案件と関係があるのかもしれませんが。これにつきまして発注担当課のほうから工事概要の説明をしていただき、事務局から発注公告の内容の入札経過についての説明をお願いいたします。

それでは、お願いします。

【担当課】

それでは、資料23ページの工事名、桑名施設計装盤用制御回路装置更新工事についての工事概要書をごらんいただきたいと思います。

設計額につきましては1,184万5,440円、工期につきましては平成29年10月16日から平成30年3月15日まで、工事概要につきましては、24ページの工事位置図に示します西部水源地西部6号井及び西部7号、8号井における故障表示警報用制御回路装置の経年劣化による動作不良を未然に防止するため、更新工事を行うものでございます。

西部水源地では1号、2号取水ポンプ盤用制御回路装置取りかえ1組、3号、4号取水ポンプ盤用制御回路装置取りかえ1組、5号、6号、7号、8号取水ポンプ盤用制御回路装置取りかえ1組、西部6号井では取水ポンプ盤用制御回路装置取りかえ1組、西部7、8号井につきましては補機盤用制御回路装置取りかえ1組を行うものでございます。

以上でございます。ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

【事務局】

続きまして、事務局から見積もり経過及び結果についてご説明いたします。

資料の26ページをごらんください。

平成29年10月10日に見積もり合わせを行いまして、指名業者の株式会社三重日立から見積もりを徴しましたところ、予定価格の範囲内で行いましたので、税抜き価格981万円で契約を締結いたしました。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、この件につきまして何かご質問等ございますか。

【委員】

さきほどと関連するんですけど、こちらが随契で先ほどが一般競争入札の違いは、私の理解ですと、その情報から合っているか、間違っているか、教えてほしいんですけど、先ほどは親局、子局というか、施設とか、設備、機器自体をごそと取りかえるという工事である一方、今回は随契理由を見ると既存装置との連動とかが不可分で、その部分との連動が不可分になっちゃうので多少技術面でハードルが上がるということでしょうか。その違いによって随契と先ほどの一般競争入札、その違いがあらわれたという理解でよろしいでしょうか。

【担当課】

施設課でございます。

おっしゃったとおりなんですけど、先ほどのものにつきましては親子ともに一体で更新するというものに対して、今回のこの案件につきましては、1つは電気の制御盤でございますが、その中に組み込まれているコントローラー、俗に言う、シーケンサーと呼ばれるコントローラーのことなんですが、これを取りかえるということで、制御盤内を構成する部品、内部部品、その寿命といいますか、耐用年数の短いコントローラー、コンピューター部品につきましてプログラム設定を含めて取りかえるということで、制御盤の一部の機器を取りかえるということで、その大もとの制御盤に大いに関連するという内容

でしたので、今回は製作会社、もとの受注会社の三重日立さんと随意契約をするということで設定させていただいております。

【委員】

今おっしゃいました基盤装置、その他の耐用年数といたしますか、更新の期間はどれぐらいですか。

【担当課】

施設課でございます。

こちらのシーケンサー、この制御装置につきましては10年程度で更新ということで施設課のほうで設定しております。それに対して盤のほうはもう少し寿命が長くて、耐用年数としましては15年程度を考えておりますが、そういった主要部品を取りかえて使うことによってもう少し寿命を延ばして使用しております。

【委員長】

ほかはいかがでしょうか。

さっきの案件とこれと一体にして1つとして出すというのは何かまずいことがあるのですか。何か不具合がありますかね。

【担当課】

施設課でございます。

いずれにしても、施設全体から見ますとそれぞれ一部の更新となっておりますので、新設のときは一体で建設することになろうかと思いますが、同じ機場内でもかなりいろんな設備が入っておりますので、やっぱり使えるところは寿命を延ばしながら使うということで、必要に応じたところを更新していくというふうに想定して設計しております。

【委員長】

この件につきましては特に問題なしということにしたいと思います。

それでは、以上をもちまして抽出事案の審議を終了いたします。発注担当課様のほうはここで退室をしてください。どうもありがとうございました。

(工事担当課 退出)

【委員長】

次回の審議案件の抽出ですが、次回は藤田先生ということでお願いします。

(3) その他

【委員長】

次に、(3) その他ですけれども、何かございますでしょうか。

事務局のほうからは何かありますでしょうか。

【事務局】

特にございません。

3 閉 会

【委員長】

それでは、これにて平成29年度第3回の桑名市入札監視委員会を終了させていただきたいと思います。

なお、本日の審議概要は後日事務局でまとめていただきたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。